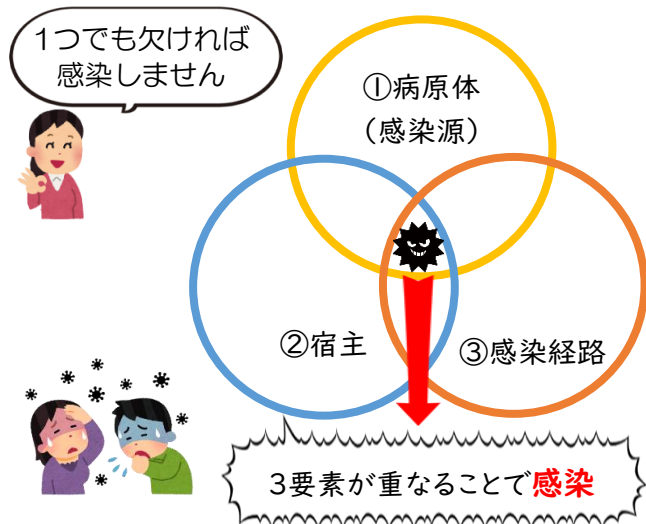


施設における感染対策のポイント

高齢者は加齢のため感染症に対する抵抗力が低下しています。高齢者施設等で働く職員は、高齢者等との接触の機会が多いため、感染予防対策を心がけ、感染を拡げないことが重要です。

感染症とは細菌やウイルスなどの病原体が体の中に入り、増殖し様々な症状を引き起こす病気の事です。

①感染源、②宿主、③感染経路 の3つの要素がそろうことで感染が成立します。これらの要因のうち、ひとつでも取り除くことが重要です。



対策1: 感染源を取り除く

- ・感染症の原因に近づかない、素手で触れない(感染源となりうるものは、感染した人や動物、病原体で汚染された物や食品など)
- ・清掃、消毒 ・手洗い



対策2: 宿主の抵抗力の向上

- ・日頃からの十分な栄養と睡眠
- ・こまめな水分補給
- ・免疫力の向上
- ・予防接種(ワクチン)



対策3: 感染経路の遮断

①標準予防策

感染症の有無にかかわらず、すべての人が病原体を持っていると考え、血液、尿や便、体液などに触れる時には必要な防護具の着用や手指衛生などの予防策を実施する。

②感染経路別予防策

それぞれの感染経路を遮断するために実施する予防策のこと。



①、②の両方の対策が必要です



<感染経路と予防策>

接触感染 	病原体に触れた手を介して感染	・手指衛生 ・ケア時は手袋着用 ・消毒(環境整備) ・衣類への付着防止(エプロン、ガウン等)
飛沫感染 	飛沫に含まれる病原体を吸い込むことにより感染	・鼻、口の保護(サージカルマスク) ・目の保護(ゴーグル、フェイスシールド) ・換気 ・咳エチケット
空気感染 	病原体を含む飛沫が飛沫核となり空気中に漂い、吸い込むことで感染	・鼻、口の保護(N95マスク) ・目の保護(ゴーグル、フェイスシールド) ・換気

持ち込まない!
持ち出さない!
拡げない!



感染症患者を早期に発見するためには、平時からの健康観察が重要です



利用者

- ・健康観察の実施 ・予防接種
- ・症状があるときは、早期受診(検査)

職員

- ・自身の体調管理
- ・体調が悪い時は出勤しない
- ・マスク着用や手指衛生の徹底
- ・ワクチン接種(媒介者にならない)



手指衛生



目に見える汚れが付いたときは必ず石けんと流水で手洗い

感染対策の基本です！

*1ケア1手洗い

*ケア前後の手洗い

液体せっけんを使用

嘔吐・下痢対応後は必ず手洗い

石けんやアルコールの詰め替えは、ボトルを洗浄・乾燥させてから行う



手指衛生のタイミング

1. 利用者に触る前
2. 清潔・無菌的手技の前
3. 血液・体液に触れた後
4. 利用者に触れた後
5. 利用者周囲の物品に触れた後
6. 手袋着用 of 前後

手指消毒

- ・必ず乾いた手で使用。15秒～30秒手をこすり合わせ乾燥させます。
- ✦ アルコール濃度70%以上、95%以下のものを使用しましょう。
- ・アルコール消毒液は、手全体にいきわたる量を使用します。
- ✦ ポンプは下までしっかり押し切りましょう。しっかり押し切った量が適正量の2～3mlとなります。



<容器の管理>

- ・清潔な容器を使いましょう。容器の中のアルコール消毒液が不足しても継ぎ足してはいけません。
- ・容器を再使用する場合は…
- ✦ 残っているアルコール消毒液は使い切る。
- ✦ 使い切った後は容器を水でよく洗い、しっかり乾燥させ、新しいアルコール消毒液を入れる。

手洗い

- ・液体せっけんをよく泡立て、もみ洗い15秒、すすぎ洗い15秒かけて洗いましょう。
- ✦ 「ハッピーバースデー」の歌を2回歌うと約30秒です✦
- ・嘔吐・下痢を引き起こすウイルスはアルコール消毒液の効果がない場合があります。
- 嘔吐・下痢の処理後はしっかりと手洗いをしましょう。

手が荒れていると
汚れが落ちにくくなります。
普段から手荒れ防止対策や
手荒れケアを行いましょう。

正しい手洗いの方法



手洗いの効果

△汚染されたままの手で次の動作を行えば、そこから感染が広がります（接触感染）

手洗いの方法	残存ウイルス数	残存率
手洗いなし	約100万個	100%
流水で15秒手洗い	約1万個	約1%
ハンドソープで10秒もみ洗い後、流水で15秒すすぎ	約100個	約0.01%
ハンドソープで60秒もみ洗い後、流水で15秒すすぎ	約10個	約0.001%
ハンドソープで10秒もみ洗い後、流水で15秒すすぎを2回繰り返す	約2～3個	約0.0001%

利用者の間で感染が広がることを防ぐため、食事の前後、排泄行為の後を中心に、できる限り液体せっけん和流水による日常的な手洗い習慣が継続できるように支援します。

個人防護具 (PPE)



感染源となる可能性がある物

- ・血液や体液 ・排泄物 (尿・便)、嘔吐物
- ・分泌物 (喀痰・膿) ・創傷部位 (皮膚 ・粘膜)

感染を防ぐための個人防護具は、利用者や疾患の特徴、ケアの内容に合わせて適切なものを選択しましょう。
不安だからと必要以上に重装備にするとかえって着脱に手間が増えて時間がかかったり、脱いだ時に感染するリスクが増えることがあります。個人防護具を正しく理解し使い分けましょう。

処置・ケア場面		手袋	マスク	ガウン	エプロン	ゴーグル
清潔 ケア	口腔ケア	○	△		△	△
	陰部洗浄	○	△		○	△
	入浴	△			○*1	
排泄	排泄介助	○			○	
	おむつ交換 (通常)	○	△*2		○	△*2
	下痢患者のおむつ交換	○	○		○	△*2
	使用後の尿便器の処理	○	○	○	○	
清掃	環境整備	○	○		○	
	血液体液で汚染場所の清掃	○			○	
	リネン交換	△	○		△	
	汚染リネンの交換	○	○	○		
	吐物の処理	○	○	○	○	△

○: 必ず使用する

△: 状況により感染リスクが高くなる際に使用する

*1: 入浴介助用の防水エプロンでよい

*2: 陰部洗浄を追加する場合



間違えやすいポイント

- 手袋は必ず処置ごとに交換。
- 手袋を外したら必ず手指消毒する。
- ✕ 手袋を二重に着用しない。
- ✕ 手袋をつけたまま他の業務を行わない。



- フェイスシールドは顔と平行になるようにつける。
- マスクは顔のサイズに合ったもので、裏表に注意。
- マスクは鼻～顎の下まで覆う。
- ✕ フェイスシールドはマスクの代わりにはならない。
- ✕ 視力矯正用の眼鏡では目の防護にはならない。



- 清潔なエリアで着る。 ○ 脱ぐ場所は予め決めておく。
- 必要な場面で必要な防護具のみ着用。
- 手袋は、他のPPEを身に着けた後につける。
- ✕ PPEをつけたまま他の業務へ移動しない。



PPE着脱の注意点

✦ PPEを着脱する際に、正しい方法で行うことが自身や他者を守り、さらなる感染を防ぐために必要です。

- ☑ 着脱の順番やイラストを掲示し、正確に着脱ができるようにしましょう。
- ☑ 着脱に慣れていない場合は、他の職員と一緒に実施するか、確認をしてもらいましょう。

✦ 脱ぐ時が一番大切です。

- ☑ 防護具の表面が病原体で汚染されているので、表面に触れないように脱ぎましょう。
- ☑ 脱ぐ順番は、手袋が最初です。
- ☑ 防護服をつけたまま他の業務へ移動しません。
- ☑ PPEは利用者ごと、ケアごとに必ず交換しましょう。

✦ PPEは使い捨てが基本です。

手袋やマスクだけではなく、ガウンやゴーグル・フェイスシールド等も同様です。
フェイスシールド・ゴーグルを物資不足で使いまわす場合は、表面を消毒しましょう。
その際、清潔な内側を先に拭きましょう。

PPEの着脱に関する正しい知識と動作を習得しましょう。



換 気

ポイント

飛沫感染、エアロゾル感染予防のため、換気が重要です

機械換気がある場合

- ・換気のスイッチは常に「入」に設定。
- ・定期的な機械換気装置の確認。
- ・定期的なフィルター清掃。

ON



窓がない場合

- ・常にドアを開けておく。
- ・サーキュレーターを使用する。
- ・HEPAフィルター付空気清浄機を使用する。

室内環境の目安

温度18℃～28℃、
湿度40%～70%が望ましい



窓がある場合

- ・2方向の窓を開けると換気効果が大きい(対角線に開ける)。
- ・窓が1つしかない場合は、ドアも開け、扇風機・サーキュレーターで風の流れを作る。
- ・1時間につき2回以上、5分～10分程度窓を開ける。
- ・空気の流れを作る(きれいな空気が風上にくるように)。
- ・換気扇、扇風機などを利用する。
(排気口に向かって設置するのが効果的)

パーティション等は、
気流を障害しないように
設置しましょう

飛沫等



きれいな空気

環 境 整 備

消毒・清掃の基本は
拭き掃除です

①よく手が触れる場所の清掃と消毒

- 例：・ドアノブ ・電気のスイッチ ・手すり
・テーブル ・椅子の背もたれ ・ベッド柵



②清掃方法

- ・床、壁、ドア等は水拭きが基本(消毒薬は不要)。
- 多くの人の手が触れるところは、状況や場所に応じての消毒が望ましい。
- ・拭き掃除をする場合は、一方向へ拭き取り、往復動作をしないことが重要。
- ・使用したモップ等は洗剤で十分に洗浄し、流水ですすいだ後に乾燥させる。

③主な感染症の消毒方法

- ・コロナウイルス・インフルエンザウイルス
アルコール消毒(濃度70～95%)が有効。
- ・ノロウイルスなどの感染性胃腸炎
次亜塩素酸ナトリウム液が有効。
(アルコール消毒は効果がない場合があります)
金属等は腐食を避けるため、10分後に
水拭きして乾燥させる。

△消毒薬の吹き付けは危険△

消毒薬の噴霧により以下の危険があります。

- ①病原体を舞い上げる
- ②消毒液の吸い込みによる健康被害
- ③引火

消毒薬はクロス等に染み込ませてから使いましょう。



- ・フタつき容器で保管
- ・冷暗所で保管
- ・当日中に使い切る

次亜塩素酸ナトリウム液の作り方

対象	濃度	希釈方法例
一般的な消毒 (食器などのつけ置き、トイレの便座 やドアノブ、手すり、床など)	0.02%	<水>500ml <漂白剤>2ml (ペットボトルキャップ約半分)
糞便や嘔吐物が付着した床・ 衣類などのつけ置き	0.1%	<水>500ml <漂白剤>10ml (ペットボトルキャップ2杯分)

市販の漂白剤
(塩素濃度5%)
の場合

感染症を疑う場合

感染症を疑う方が発生した場合は、感染拡大防止のため速やかに対応しましょう。

陽性が判明したら

- ① 連携・協力医療機関に報告
- ② 受診(往診)・検体採取
- ③ 感染症疑いのある入所者の隔離
- ④ 隔離中の対策を確認



- ◆ 手指衛生の方法 ◆ 換気
- ◆ 個人防護具の着脱 ◆ ごみの処理
- ◆ ゾーニング ◆ トイレ・入浴

- ⑤ その他の体調不良者の有無を確認

お気軽に
お問い合わせ
ください

お問い合わせ先：尼崎市保健所 感染症対策担当

【TEL】06-4869-3062 【FAX】06-4869-3049